



## ご挨拶 「この一年を振り返って」

九州国立博物館を愛する会 理事長 前田和美



昨年度、福岡県の地域貢献活動部門表彰、花王ミュージアムプログラムで入選、など地域の期待が高まる中、本年度が始まり、新たに広報、例会の委員会を新設し、「会員の皆さんとより深いコミュニティづくりを図っていききたい」と充実した会を目指し出発しました。9月に古都の光、太宰府政庁祭りに参加し、市民の皆様へ会をアピールしました。11月に「九州発見の旅」を実施し、九州のすばらしさを改めて感じた旅でした。例会では、九博の特別展の鑑賞会を活発に行い、2月には「九博子どもフェスタ」を、さらに3月の九博デーでは、九博がまもなく5周年を迎える中、より身近に博物館を感じてもらうため「九博の宝物たち」を行いました。これからも数多くの事業を展開しますので、会員の皆様の温かいご支援、宜しくお願いいたします。

### 佐大生とのコラボ！ れいろうピッカ美化隊

佐賀の中心街呉服町はかつては福岡の新天町のように賑わっていました。今では大型店舗の進出などですっかりさびれ、シャッター通りになっています。この町の中心に656（むつごろう）広場がありますが、ここを中心に佐賀大学の学生さんや地元の人々と、毎月第二土曜日に清掃活動を行っています。

私の所属している、道徳の勉強会グループ10名もこの活動に参加し、若い人達のエネルギーをもらいながら頑張っています。作業は道路の掃き掃除、モップかけ、公衆トイレの掃除、神社の草取りなど、毎回平均30名程度の人々が参加します。

私たちのグループは「れいろうピッカ美化隊」と名づけ08年7月から水色の水玉模様のバンダナを着けて、さわやかに？颯爽？と作業をしています。

作業が終われば「月刊誌れいろう（モラロジー研究所編・心の生涯学習誌）」を輪読し、街に残って頑張っている小さなレストランで昼食をして解散です。とても楽しいひと時です。

佐賀城下雛祭りの時には、656広場もグルメ広場として大賑わいでした。その後もいろいろなイベントが行われるようになりました。やはり、「街を清掃でキレイ（ピッカ美化）にしていたから生き返ったのだな～ \ (^o^)/ 」と思っています。太宰府のピッカ美化隊とは、また違う喜びを感じています。

これからも ガンバルぞ～(^\_^)v 井手 良治(佐賀市に転居されました)

# 九博子どもフェスタ - 報告 -



今年も弾ける笑顔に会えました！



昨年、子供達に博物館のイメージを変えて欲しい、「博物館って意外と面白いね！」と感じてもらいたいとの思いから始めた「九博子どもフェスタ」、今年も2月21日（日）開催、多くの地域の子供達、親子家族連れで賑わいました。（好天にも恵まれ、この日は12,000人を超える来館者でしたので先週の日曜日との比較で2,500～3,000人の家族連れがこのイベントのために来館したと思われます。）

ご承知のように九博には「あじっば」という子どもから大人まで楽しめる体験学習型展示室があります。「あじっば」を訪れる多くの子供達、家族連れを見て常々感じることは、子どもは自分が上手くできること、できたことを友達に自慢したい、父母家族にほめて欲しいと願っています。そのような機会をより多く提供できるのがこの「九

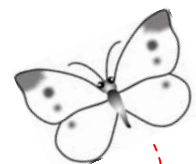
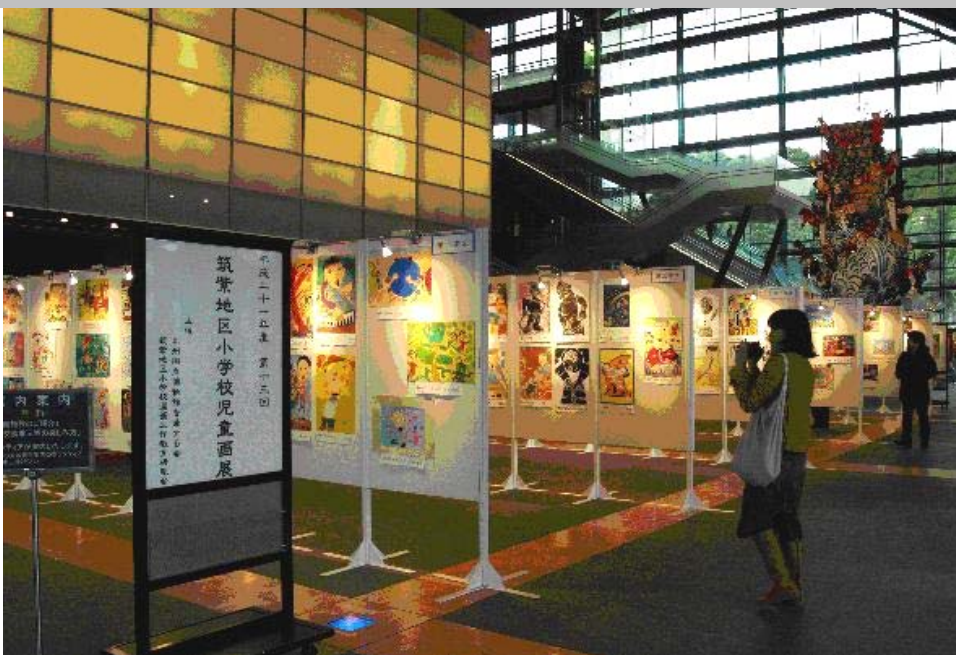
博子どもフェスタ」で今年も弾ける笑顔に包まれました。

参加されたご家族の皆さんのアンケートでも「博物館で、このようなイベントが開催されていることを初めて知りました・・・定期的に子供が楽しめるイベントがあると嬉しいです・・・子供向けのイベントがあると博物館に親しみが持てて良いなと思いました・・・」等々好評で、今後もこのようなイベントを続けることの意義と、より多くのお客様への告知活動の必要性を強く感じました。

このイベントは「九博を愛する会」と「九博ボランティア」が一体となり、こどもの視点にたち研究・工夫を加えた手作りの催しです。それに九博、筑紫地区教育委員会、太宰府天満宮、九博振興財団のご協力、後援を得て開催することが出来ました。

## イベント内容

2月16日からエントランスホールで「筑紫地区児童画展」が始まりま



筑紫地区 48 校の児童画 300 点を展示、出展された児童家族の誇らしげな笑顔にであいました。



2月21日のエントランスホール



「ひみついっぱい!  
チビッコ探検隊」



「チマ・チョゴリを  
着て見て遊ぼう!」



「わたしは遣唐使  
(人間すごろく)」

2月21日の研修室



「紙あそびー夢を折る、思い出を折る、心で折る」独楽とお雛さまと馬を折りました



「タングラム(パズル)で  
遊ぼう!」  
頭の体操だよ!!



「毛糸でアートを織ろう!」



ほら、素敵  
でしょ!

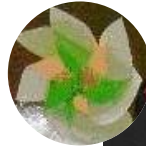


「ひもで結んでストラップ！」

「かざぐるま作ろうよ！」



こんなストラップができるよ。



もう少しで出来上がるぞ！！

2月21日の研修室では5つのワークショップを集約、広いブースで落ち着いて対応できたと概ね好評でした。（エントランスホールから研修室への子ども誘導方法に、もう一工夫欲しかった）。

また、「あじっば」での「なりきり考古学者体験」、そして九博の絵本を4階の文化交流展示室で読み聞かせる「絵本でおはなし」も大好評でした。



「なりきり考古学者体験」  
真剣な顔だね！



ハーリー船の前で読み聞かせ

さらにミュージアムホールでは学生ボランティアの「スライド紙芝居」、大宰府少年少女うたい隊の「合唱」、連歌屋子ども会の「影絵」も、お母さん方の熱心な指導もあり、短期間の練習で子どもたちはのびのびと立派に演じることができました。

そして「おんがくであそぼう！」はホールの子どもたち90名が参加して、竹筒、ペットボトル、空き缶の3つのグループに分かれ、サンバのリズムを打ち鳴らしながらひとつの音楽にまとめるといった素晴らしい体験をしてもらいました。



おんがくであそぼう！



サンバのリズムを体感



この「九博子どもフェスタ」当日は、100名以上のボランティアの皆さんがほとんど終日、昼食を取る暇も惜しんで熱心に対応いただきましたし、青年会議所の若い会員の皆さんにもミュージアムホールへの案内、展示具片付け等にご協力いただきました。おかげさまで多くの子ども達、ご家族が「博物館って本当に面白かった！」との思いで1日を過ごされたことと思います。本当にご協力ありがとうございました。



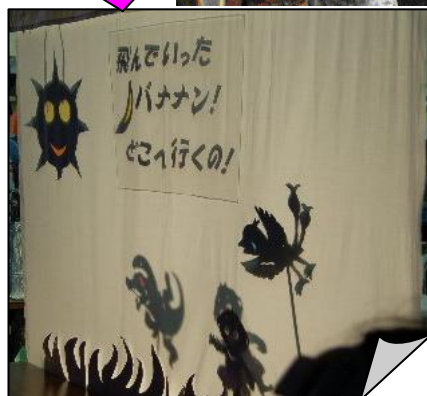
大宰府少年少女うたい隊

連歌屋子ども会の「影絵」練習風景



みな必死です

早朝からのリハーサルでがんばりました。



大町公民館での練習も楽しかった。嬉々として参加していました。

### 『トピック展示』情報

## 国宝琉球国王尚家関係資料修理完成記念展示

展示期間 4月13日～5月23日 4F 文化交流展示室にて

400余年(1470年～1879年)余りにわたって琉球王国を統治してきた王家である尚家が代々継承してきた資料は、沖縄県内での国宝第1号となっています。当館では平成21年度からこれらの資料を保存修理してきました。

琉球の歴史を伝える貴重な資料群ですが、虫食いなどで頁を開くことが出来ないほど傷んだものもあって言われています。この度、修理事業初年度の成果が経過報告と共に展示されます。琉球・沖縄の歴史がうかがえます。

是非ご覧になってください。

T. F





## 第14回 九博デー 報告

平成22年3月21日に九州国立博物館ミュージアムホールで「九博デー」が開催されました。今回のテーマは「九博の宝物たち」という事で、太宰府リコーダーアンサンブルの演奏、前田理事長の挨拶の後、九博の所蔵品について、現東京国立博物館副館長（元九博学芸部長）の小松大秀さんの講演がありました。紙面の都合で内容を要約してご報告いたします。

講演：（１）「九博の宝物」－新指定重要文化財「菊蒔絵手箱」を中心に－では、全国に6つの「国立文化財機構」がある。それぞれの名称と主な役割は次の通り。

### ① 東京国立博物館

わが国の総合的な博物館として広く重要な文化財を収集、研究、展示など。

### ② 京都国立博物館

平安から江戸にいたる京都文化を中心とした文化財を収集、研究、展示など。

### ③ 奈良国立博物館

仏教美術を中心とした文化財を所蔵、研究、展示など。

### ④ 九州国立博物館

日本文化は、九州を中心としたアジア諸国との交流を通じて形成されたという視点から、それらの交流に関わる文化財を中心として収集、研究、展示など。

### ⑤ 東京文化財研究所

文化財全般にわたり、基礎的な調査研究から先端的研究。保存、修復に関する国際協力拠点としての役割を担っている。

### ⑥ 奈良文化財研究所

遺跡、建造物、庭園等の土地に結びついた文化財及び南部、近畿を中心とした 古社寺等における文化財の調査・研究を行っている。

### 九博は恵まれた博物館

九博の研究員の数東京の次に多い26名、東京が55名、京都が15名、奈良が14名と比べれば解ると思います。それから設備は最先端の技術で設計されている。

立派な陣容と最新の設備これが九博の恵まれた特徴です。一つだけ足りないものは所蔵品。

これからは、国宝や重文に指定されるような貴重な所蔵品を増やしていくよう努力しなければなりません。

九博は生まれたばかりの発展途上なのです。みんなで応援しよう！

### 「菊蒔絵手箱」について



九博に「菊蒔絵手箱」があるという事はとても重要な事です。私達の業界は、展示の時に様々な文化財を借りてくる。しかし、借りるだけではすまない、代わりに、今度は貸し出すものが必要になってくる。その為にもこのような素晴らしい所蔵品が九博にあることはとても大事な事なのです。

その後、様々な九博にある所蔵品の中から、漆器を中心に紹介がありました。

その後、九州国立博物館展示課主任研究員の楠井隆志さんによる（２）「阿修羅像の健康診断」、九州国立博物館学芸部企画課文化交流展室長の河野一隆さんによる（３）「最新機器でわかった神々の青銅器の秘密」という講演がありました。身近にこのような面白いお話が伺える事、貴重なお話ありがとうございました。



### 参加者アンケートより

\*たくさんのアンケートをいただきました。賛嘆と感動の言葉が詰まっていました。

とても判りやすいお話でした。蒔絵のすばらしさ、当時の高度な技術を再認識しました。次回からは観る視点が変わりそうです。

普段見学だけでは知りえないことがわかって良かった。これからは研究員・学芸員のお話を聞く場をもっと設けてください。博物館の楽しみ方がまた増えました。

菊蒔絵。高蒔絵の良さ、知らないことの多さにびっくり！

阿修羅像のでき方などよくわかった。九博に素晴らしい設備があることをうれしく思った。

知的な時間を持って嬉しかった。

今日のお話は、中高生(大学生)に聞かせ、見せたいものです。学校のクラブ活動で「九博を知る会」なんぞあるとよいですね。

九博があることに感動！

解説が素晴らしかった。感心しました。

X線CT、3Dデジタルデザイナーなどの九博のお宝の機器の話に吸い込まれた。見えない世界を見ることができた。

研究員の博物館への思いが良く伝わってきました。これからは楽しい博物館作りを！5感で楽しむ博物館を目指してください。

## 特別展「パリに咲いた古伊万里の華」

伊藤嘉章(九州国立博物館学芸部長)

九州国立博物館のこの春の特別展は「パリに咲いた古伊万里の華」、4月6日より6月13日まで開催です。

この特別展は1659年(万治2)オランダ東インド会社によって古伊万里のヨーロッパへの公式輸出が始まって350周年を記念するものです。日本が鎖国をしていた江戸時代に、この九州の地で作られたモノがヨーロッパで王侯貴族たちを魅了していたという、夢のようなことが起こっていました。今回の展覧会は、そんな夢の証人たち、ヨーロッパに花開いた古伊万里の競演です。

日本の磁器の始まりは、1610年代のこと。それから50年も経たないでヨーロッパへの公式輸出が始まりました。この頃は、中国で明朝から清朝への転換期、大きな混乱が起こっていました。1656年、清朝の海禁令により、中国陶磁をヨーロッパへ運ぶことで莫大な利益をあげていたオランダは、その供給元を絶たれます。そこで目を付けたのが、伊万里焼だったのです。

それから約百年の間、伊万里焼はヨーロッパの王侯貴族たちを魅了し続けました。今回の展覧会では、それらを四つの章に分けてご紹介しています。

第1章は「欧州輸出の始まりと活況」として、1660～70年代のこと、輸出が始まった頃の作品です。芙蓉手と呼ばれる中国の青花を写した染付大皿を初めとし、初期輸出物と呼ばれる色絵までをご覧ください。第2章は「好評を博した日本磁器の優美」として、1670～90年代のこと、江戸時代の色絵の中でも最も優美な柿右衛門様式はこの時期に生まれたものでした。第3章は「宮殿を飾る絢爛豪華な大作」として、1690～1730年代を。金襴手と呼ばれる染付の紺地に華やかな金彩が印象的な大作が作られます。第4章は「欧州輸出の衰退」で、1730～50年代のこと、約百年続いた伊万里焼の輸出時代の最後の様相をご紹介します。

今回の展覧会も作品をじっくりとご覧いただけます。一步進んで、九博ならではの楽しんでいただける展示にもしっかりと取り組んでいます。ヨーロッパで古伊万里がどのように愛されていたかを感じていただけるような展示。あるいは古伊万里を知るために、より深く感じていただくための道しるべの役割を果たすパネルもご用意しています。

「今度の展覧会も楽しいよ」と言ってもらえるようにスタッフ一同頑張りました。

会場でお会いできることを楽しみに。

色絵花鳥文蓋付大鉢  
1720～50年代

©USUI COLLECTION





きゅうーはくイベント情報

開催日	時間	その他条件	もよおし	会場	問合せ先 ※注1
-----	----	-------	------	----	-------------

特別展「パリに咲いた古伊万里の華」関連イベント

4月13日(火)～ 4月25日(日)	9:30～ 17:00	申込なし	有田焼400年祭イベント 「匠の蔵」特別展	エントランスホール	C
5月1日(土)	14:00～ 15:00	事前申込、無料、定員10組 対象:小・中学生と同伴の大人	親子で楽しむワークショップ① 「えをかこう、いろをぬろう」 — 挑戦・古伊万里の技! —	1F 和室	B
5月2日(日)	14:00～ 15:00	事前申込、無料、定員10組 対象:小・中学生と同伴の大人	親子で楽しむワークショップ② 「金ピカにかざっちゃえ」 — 大変身! 古伊万里ビフォーアフター —	1F 和室	B
5月8日(土)	14:00～ 15:30	事前申込(先着順)、無料、 定員280名	酒井田柿右衛門氏講演会	ミュージアムホール	B
5月9日(日)	14:30～ 15:30	申込なし(先着順) 無料(特別展のチケットの半 券が必要)	ヨーロッパの宮殿を彩るミュー ジウムコンサート(仮称)	ミュージアムホール	B
5月22日(土)	14:00～ 15:30	事前申込(先着順)、無料、 定員280名	大橋康二氏講演会 「海を渡った古伊万里」	ミュージアムホール	B
5月30日(日)	14:00～	事前申込(先着順) 無料(特別展のチケットの半 券が必要)	松嶋啓介 太宰府凱旋記念 トークイベント(予定)	ミュージアムホール	B

その他のイベント

4月4日(日)	14:00開場 15:00～16:30	申込なし、無料	龍馬ウオークin太宰府 開催記 念企画「龍馬」シンポジウム	ミュージアムホール	D
4月13日(火)～ 4月25日(日)	9:30～ 17:00	申込なし、無料	福岡新聞学校プロジェクト	エントランスホール	E
4月17日(土)	①13:00～13:30 ②15:00～15:30	申込なし、無料	きゅうーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	A
5月15日(土)	13:30～ 15:30	要申込、無料 対象:小学生～高校生	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	F
5月16日(日)	13:00開場 13:30開演	全席指定2,500円	第15回九博朝日寄席 「藤兵衛、喜多八 二人会」	ミュージアムホール	G
5月18日(火)～ 5月23日(日)	9:30～ 17:00	申込なし、無料	「生活の中のデザイン」九州クラフト デザイン協会会員選抜展	エントランスホール	H
5月23日(日)	①13:00～13:30 ②15:00～15:30	申込なし、無料	きゅうーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	A
6月12日(土)	①13:00～13:30 ②15:00～15:30	申込なし、無料	きゅうーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	A
6月19日(土)	13:30～15:30	要申込、無料 対象:小学生～高校生	ガムランワークショップ	3F特別展示 室前	F

※注1

A 九州国立博物館 NTTハローダイヤル 電話050-5542-8600 (8:00～22:00)

B 西日本新聞イベントサービス内「パリに咲いた古伊万里の華」係 電話092-711-5491(平日 10:00～17:00)

C 有田焼卸団地協同組合 電話0955-43-2288

D 太宰府商工会事務局 電話092-922-4345

E 福岡新聞学校事務局(西日本新聞社 企画推進部) 電話092-711-5466

F 九州国立博物館 交流課教育普及担当 電話092-929-3294

G 朝日新聞社 事業本部西部企画事業チーム 電話092-411-1137 (平日10:00～18:00)

H 九州クラフトデザイン協会 ディレクター廣田智子(太宰府織工房ひろ) 電話092-925-8318

## 国博通り道路・街路灯の清掃活動

ピッカ美化隊は3月25日、今年も九博デーの一環として、又電気記念日にちなんで太宰府市、地元馬場自治会、九電、九電工の皆様のご参加を得て共同で国博通りの清掃活動を行いました。太宰府市からは井上市長をはじめ9名の参加、地元馬場自治会長、公民館主事が参加、九電からは20名、九電工からは9名の参加、ピッカ美化隊は22名、計62名が参加しました。

九電、九電工・太宰府市職員の皆さんは、高所作業車3台で24基もの街路灯を次々と清掃して、他の人たちは、国博通り道路・公園の雑草の除去、博物館外周辺道路のゴミ取り・除草を行いました。

作業終了後は公民館で鶏飯のおにぎりとおにぎりより炊き出していただいた豚汁を食べながら歓談しました。九電・九電工・大宰府市職員さんからは、環境や省エネの話もあり、又、電気自動車の説明、試乗もあり、九博デー、電気記念日の行事として有益な一日でした。

今年で3年続けており、来年も続けたいとの声があり、愛する会の活動としても一層のご協力を得たこととなり、今回も無事終わることができました。

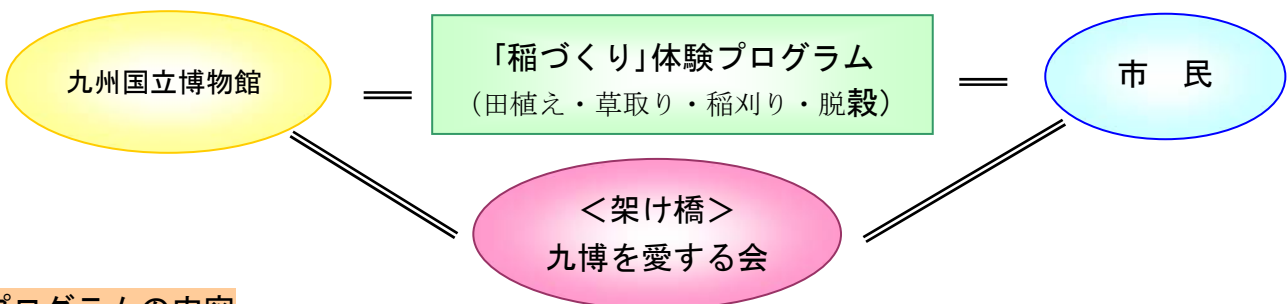
事業委員会・ピッカ美化隊

### お知らせ

## 「稲づくり」体験しませんか！「米づくり隊」会員募集中!!



九博・文化交流展示室では「稲づくりから国づくり」をテーマに水稲耕作と金属器の普及について展示され、国の繁栄についての稲や金属器の役割についてわかりやすく説明されている。そこで、博物館の文化交流展示室と水稲耕作の田んぼを結んで、館内展示と田んぼのフィールドミュージアムの立体的な融合を図り、具体的にわかりやすく「稲づくりから国づくり」を楽しく体験します。



### プログラムの内容：

- (1) 九博4階「文化交流展示室－稲づくりから国づくり」の観覧と案内会(6/5 予定)
- (2) 田んぼでの「米づくり」を体験します
  - ① 田植え(6月5日を予定)
  - ② 草取り・案山子づくり(7月～8月予定)
  - ③ 稲刈り・架け干し(9月～10月予定)
  - ④ 脱穀(10月～11月予定)
  - ⑤ 餅つき(12月予定)



場所：九州国立博物館4階文化交流展示室、大宰府市北谷地区の田んぼ



- 内 容** : ①小学生参加者の「稲づくり」体験プログラムでは、文化交流展示室で「稲づくりから国づくり」を観覧し、学芸員の説明を聞く。
- ②学芸員と市民ボランティアといっしょに、実習田である北谷の田んぼへ。そこで年間を通じ様々な農業体験をする。
- ③ここでは、地域の農家の人たちが先生となり、稲づくりとともに農業文化・農村文化を体験する。田植え、草取り～稲刈り・架け干し体験などの稲の一生を体験。「案山子づくり」「おにぎり作り」なども体験。
- ④餅つき体験の楽しみのためにもち米の生産を予定しています。

**募 集** : 参加する小学生のためにお手伝いをして頂ける方を募集します。

会 費 : 1万円 (子どもたちと一緒に餅付きして餅をお渡しします)

※九博文化交流展示室入場料、体験時の昼食代(おにぎり程度)を含む

※草刈、農作業体験及び稲の生育管理として5千円を充てている

募集人数 : 最大50名 (2反5畝の田んぼからの収穫で予定)

実作業 : 子どもたちと一緒に田んぼでの「米づくり」を体験します。

(参加できる日程のみでOKです)

**実施体制** : 九州国立博物館を愛する会 (事業委員会) の中に実行委員会を設置し、主催します。

会員になって頂ける方を中心に実行委員も募集します。

**協 力** : 大宰府市北谷地区の皆さん

**実施運営** : ・平成22年2月28日 田んぼの草刈、草焼き、田すき実施済

・水の管理などは地元の方にお願ひします

・もち米55箱の苗を手配しました

・実作業の手伝いをする人を選任する (募集/小学生/愛する会)

**申し込み先** : 必要事項をご記入のうえ、郵送、FAX 又はE-mail でお申し込みください。

氏名	ふりがな		
参加口数	口	金額	円
年齢	才	性別	男 女
職業			
住所	〒		
自宅電話			
携帯電話			
FAX			
E-mail			
実行委員	なっても良い	ならない	

〒810-0033 福岡市中央区小笹4-12-12-202

「稲づくり」体験プログラム 須川一幸 宛

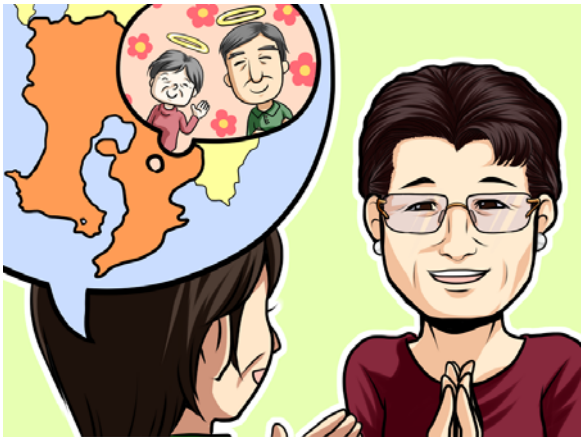
電話 : 090-3013-2569 FAX : 092-406-0826

E-mail : [sugawa@tiiki.net](mailto:sugawa@tiiki.net)

※参加費は、後日指定の口座にお振込みください

申込締め切り : 4月23日(金) 先着順で受け付けますが、応募が多い場合は抽選を行います。

金子 範子



初夢は「一富士ニ鷹三茄子」のいずれかを見ると縁起がよい、一年間幸運に恵まれると言われているが、一向に夢に出てくれない。人間は何をするにも縁起を担ぎ、喜びや不安を感じる。私もその一人である。先日の連休に友人夫婦と小旅行に出かけた。行き先は鹿児島。鹿児島と決めた理由は友人との会話の中で友人が言った、「父母の出身地が鹿児島であるのに一度も鹿児島へ旅行する機会に恵まれない、父母が他界して数十年、どんな所に住んでいたのか見たいものだ。土を踏むだけでも先祖の供養になるのではないだろうか。」と話し始めた。

その夜、母親の夢を見たらしい。「先祖が喜んでくれるよ。鹿児島へ行こう。」という事になった。旅行の前日は雷雨、強風、大雨と大荒れ、帰宅してからはまたまた連日の雨。旅行中の天気の良かった事が夢のよう。先祖が守ってくれているとしか思えない不思議さを感じる二日間だった。

天空の青に映える桜の花、木々の新緑の鮮やかさ、爽やかな空気・・・心地よく景色を眺めながら桜島へと向かった。山肌がくっきりと見え本当にすがすがしい思いだった。

この二日間が不思議に思われ、どれもこれも「先祖が護って下さったのだろうね。」と喜び合い先祖に感謝した。

旅行後のある夜、私はすばらしい夢を見た。綺麗に飾った吊り鐘をある施設に奉納している夢だ。大勢の人に祝福されながら行列している釣鐘の夢だ。

何かきっとよい事が起こりそうな気がする・・・よい事が起こればいい・・・。



総会案内 日時：6月20日(日) 15:00～17:30 (受付14:30～)

場所：いきいき情報センター 多目的ホール

※総会終了後、懇親会を予定。

#### 編集後記

新年度を迎え「アクト」も11号になりました。はじめ4ページではじめた「ACT」も今や、12ページ。広報委員もますます意気軒昂です。今年からは会員の皆様以外の方々にも読んでいただこうと増刷いたします。「アクト」を置いていただけるお店や場所がありましたら、情報提供をよろしく願います。

S. F